（別紙様式１－１）

職業実践専門課程として認定する専修学校の専門課程の推薦について

文　部　科　学　大　臣　殿

令和 7年10月 1日

下記の専修学校の専門課程を職業実践専門課程として認定する課程として推薦します。

記

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地
岡山科学技術専門学校	昭和62年10月19日	大月秀之	〒　700-0032 （住所）　岡山県岡山市北区昭和町8-10 （電話）　086-255-7171
設置者名	**設立認可年月日**	**代表者名**	**所在地**
学校法人岡山科学技術学園	昭和62年10月19日	瀬戸川正彦	〒　700-0032 （住所）　岡山県岡山市北区昭和町8-10 （電話）　086-255-7171

分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度
工業	工業専門課程	一級自動車工学研究科	令和 5(2023)年度	－	令和 4(2022)年度

学科の目的	現在の高度な自動車技術に対応できる基礎技術の修得と接客力の向上に努め、就職後は積極的に仕事に取り組むことのできる姿勢を磨き、企業でリーダー的存在となる人材の育成を目指す。
学科の特徴(取得可能資格、中退率等)	一級小型自動車整備士の資格取得とともに、大学通信課程の併修制度を利用し、学士の取得を目指す。令和5年度の中退者はなし。

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総		講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	2,304 単位時間	458 単位時間	単位時間	1,846 単位時間	単位時間	単位時間
			単位	単位	単位	単位	単位	単位

生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)
30 人	5 人	0 人	0 %

就職等の状況

■卒業者数 (C)　：　1 人
■就職希望者数 (D)　：　1 人
■就職者数 (E)　：　1 人
■地元就職者数 (F)　1 人
■就職率 (E/D)　100 %
■就職者に占める地元就職者の割合 (F/E)　100 %
■卒業者に占める就職者の割合 (E/C)　100 %
■進学者数　0 人
■その他
（令和　6 年度卒業者に関する令和7年5月1日時点の情報）
■主な就職先、業界等
（令和5年度卒業生）
山陽村上モーター株式会社

第三者による学校評価

■民間の評価機関等から第三者評価：　無
※有の場合、例えば以下について任意記載
評価団体：　受審年月：　評価結果を掲載したホームページＵＲＬ

当該学科のホームページURL

https://www.oist.ac.jp/

企業等と連携した実習等の実施状況（Ａ、Ｂいずれかに記入）

（Ａ：単位時間による算定）

総授業時数		2,304 単位時間
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	240 単位時間
	うち企業等と連携した演習の授業時数	単位時間
	うち必修授業時数	2,304 単位時間
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	240 単位時間
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位時間
	（うち企業等と連携したインターンシップの授業時数）	単位時間

（Ｂ：単位数による算定）

総授業時数		単位
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位
	うち企業等と連携した演習の授業時数	単位
	うち必修授業時数	単位
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位
	（うち企業等と連携したインターンシップの授業時数）	単位

教員の属性（専任教員について記入）

① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者	（専修学校設置基準第41条第1項第1号）	1 人
② 学士の学位を有する者等	（専修学校設置基準第41条第1項第2号）	0 人
③ 高等学校教諭等経験者	（専修学校設置基準第41条第1項第3号）	0 人
④ 修士の学位又は専門職学位	（専修学校設置基準第41条第1項第4号）	0 人
⑤ その他	（専修学校設置基準第41条第1項第5号）	0 人
計		1 人

上記①～⑤のうち、実務家教員（分野におけるおおむね５年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定）の数	1 人

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

（1）教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針

本学科は、自動車整備の関連業界で活躍できる人材を育成するために、関連企業との連携の下、下記①～⑥の視点に基づき、業界の技術的動向や人材の育成にかかる情報等の収集や分析に努めるとともに、これらを踏まえた学科教育方針（教育課程や学習内容および育成する学生像等）を策定し、社会に貢献できる実践的技術者の育成を目標に専門教育を推進する。

また、教育活動の推進にあたっては、学生による授業評価や管理職による公開授業評価等に加え、関連企業等との協議（教育課程編成委員会等）を通して助言や提言をいただきながら、教育課程に関わる指導内容や指導方法について検証（PDCAサイクル）するとともに、検証結果に基づいて次年度の学科教育方針を策定する。

以上が、教育課程の編成に係わる企業等との連携の基本方針である。

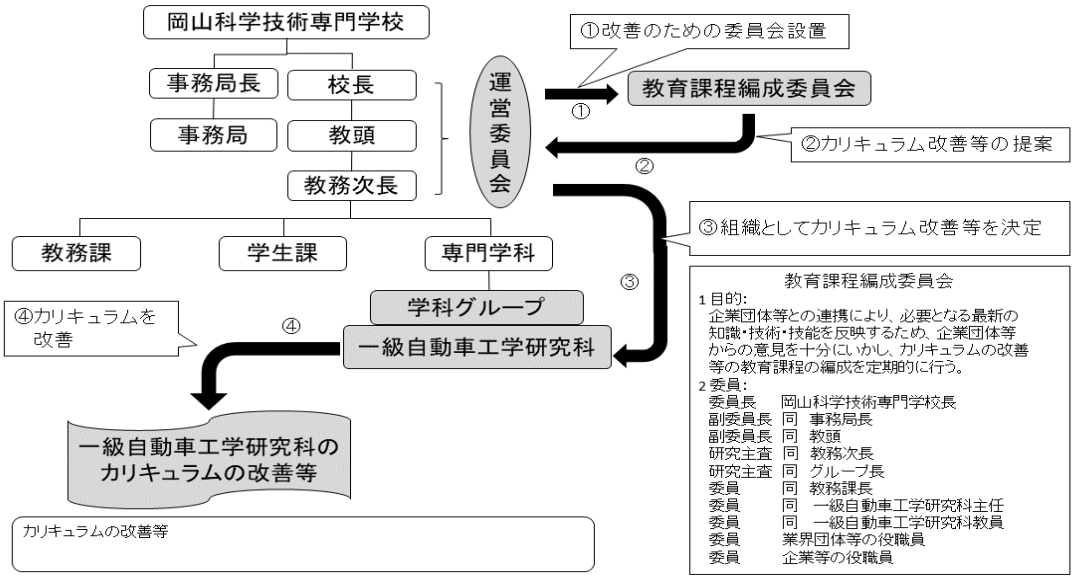
①地域における自動車整備の関連業界の動向について
②自動車整備の関連業界において人材に求められる専門性の動向について
③求められる実務に関する知識・技術・技能・資格等について
④自動車整備の関連業界が求める人物像について
⑤自動車整備の関連業界における人材育成について
⑥整備実習に関わる指導プログラムについて

（2）教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、学園組織図の「職業実践専門課程推進委員会」の下部組織として位置づけ、下図に示すように①運営委員会の指示の下、教育課程編成委員会において企業関係者等から意見を聴取するとともに、現行教育課程の検証を行い、必要に応じて②運営委員会に教育課程の改善等を提案する。③運営委員会において提案が妥当であると決定した後は、④一級自動車工学研究科の学科教育方針の見直しを行い、座学および実習の指導内容等の改善を図る。なお、年度末の教育課程編成委員会においては改善後の評価等を実施するとともに、翌年度の教育課程の編成にいかす。

教育課程編成委員会の位置付け



（3）教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年4月1日現在

名　前	所　　属	任期	種別
大月　秀之	岡山科学技術専門学校　校長	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日（1年）	
小野　裕明	岡山科学技術専門学校　事務局長	〃	
平野　裕久	岡山科学技術専門学校　教頭	〃	
津田　恵美	岡山科学技術専門学校　教務次長	〃	
永岡　淳	岡山科学技術専門学校　教務課長 一級自動車工学研究科　教員	〃	
伊丹　直毅	岡山科学技術専門学校　第3グループ長	〃	
武内　一範	岡山科学技術専門学校　一級自動車工学研究科　主任	〃	
赤木　晴彦	一般社団法人岡山県自動車整備振興会　事業部　係長	〃	①
岡本　良光	UDトラックス株式会社　中四国地域営業本部 Specialist Workshop Operation	〃	③

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
① 業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
② 学会や学術機関等の有識者
③ 実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

（4）教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

（年間の開催数及び開催時期）

年2回（5月～7月、2月～3月）

（開催日時（実績））
第1回　令和6年7月12日（金）　9:30～11:30
第2回　令和7年3月4日（火）　10:00～11:30

（5）教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況
※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記

【提言】
修理作業中に飽きてしまう学生への指導方法は？
【活用・改善】
修理作業では、センサーの断線や短絡を発見するためにサーキットテスターを使う必要があります。これを1本ずつ確認するのは時間がかかり根気が必要です。学生が飽きてしまうことが多いため、指導する際には成功した時の達成感を見せることが大切です。また、頑張れだけではなく具体的なサポートを提供し、チームでの協力や連携を強調することで、学生のモチベーションを保つことが重要です

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

（1）実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針
本校では、学科教育は学科教育方針に基づき目指す学生像を到達目標におき教育活動を推進している。中でも、実習指導は実学主義の観点から、高度な技術・技能について指導する必要があり、企業との連携は不可欠である。そこで、企業との連携にあたっては、自動車整備関連の業界において高い技術力を有するとともに、知識・技術・技能について指導力があり、技術者としての態度やマナー等の指導にも十分な理解と協力が得られること等を重視し決定する。
連携に基づく実習は、科目「体験実習」での実習とし、諸条件を満足する企業を選定するとともに、協定書等を締結しこれに則り実施する。以上が企業等との連携の基本方針である。

（2）実習・演習等における企業等との連携内容
※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記
〇連携企業の選定と協定：上記基本方針を基に、①専攻分野との関連性が特に高いこと、②知識・技術・技能についての指導力があること、③社会人としての態度やマナー指導等についても協力いただけること等を条件に選定した。その後、事前に実習内容と評価方法の打ち合わせを行い、相互に理解が得られた企業等と協定を締結した。
〇連携企業：岡山トヨペット株式会社、広島日野自動車株式会社
〇科 目 名：体験実習
〇連携内容
(1) 実習期間：2年生の科目「体験実習」において、1日8時間、35日間の体験実習を行う。
(2) 実習内容：企業等と締結した協定書に基づき勤務し、自動車の点検整備・故障原因探求・総合診断について学ぶとともに、社会人としてのマナーや態度について指導を受ける.。
(3) 損害賠償：実習を行う学生は「インターンシップ活動賠償責任保険」と「学生・生徒災害傷害保険」に加入する。
(4) 評　　価：インターンシップ終了後、連携企業の担当者による学生の学修成果の評価を踏まえ担当教員が評価基準に則り5段階で評価する。

（3）具体的な連携の例　※科目数については代表的な5科目について記載。

科　目　名	科　目　概　要	連　携　企　業　等
体験実習 （自動車の点検整備・故障原因探求・総合診断）	35日間にわたり、連携企業でより実践的に整備作業全般について学ぶ。	岡山トヨペット株式会社 広島日野自動車株式会社

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

（1）推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針
※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記
教職員の研修・研究等については、本校教職員研修規程、ならびに下記(1),(2)に示す研修項目に基づき、教職員の経験や能力に応じた研修計画を法人の指示の下、教務において作成し学科主任ならびに関係教職員に受講させるものとする。受講を命じられた教職員はこれに参加し、専門職として求められる技術力や指導力の向上に努めなければならない。
研修成果は、報告書にまとめるとともに、内容によっては受講者が関係教職員に伝達講習し主旨等の徹底を図る。
また、教職員は、日頃より自己研鑽に励むとともに、指導力の向上に向けた授業研究や研究紀要への投稿等に取り組み、以て本学科教育の充実・発展に資するよう努力することを基本方針とする。

(1) 自動車整備分野における実務に関する研修等
① 企業、団体が主催する専門技術研修
② 企業から講師を招聘した専門技術研修
③ 専門技術・技能の伝達講習
④ 教員の技術レベルに応じた専門技術研修

(2) 指導力の修得・向上のための研修等
① 専修学校教員 教職課程研修
② 企業、団体主催の指導力育成研修
③ 外部講師による指導力育成研修
④ 職務分掌上の業務に関する指導力育成研修

（2）研修等の実績
①専攻分野における実務に関する研修等
(1)研修名：日産技術講習
期　間：令和6年8月6日（火）
対　象：一級自動車工学研究科（武内　一範）
内　容：電気自動車、自動運転技術について　（試乗体験）

②指導力の修得・向上のための研修等
(1) 研修名：「留学生との会話のポイント」（連携企業等：岡山科学技術専門学校教務部）
期　間：令和6年4月3日（水）
対　象：一級自動車工学研究科（武内　一範）
内　容：本校への留学生が増えてきている現状を踏まえ、日本語学科の佐藤先生が留学生との会話のポイント等について講義

(2) 研修名:「発達障害について」（連携企業等:広島大学大学院人間社会科学研究科　村上理絵助教）
期　間:令和6年8月22日（木）
対　象:一級自動車工学研究科（武内　一範）
内　容:広島大学大学院人間社会科学研究科の村上理絵助教が、発達障害を持つ学生への接し方等について講義

(3) 研修名:「就職活動に向けて、今から実践！社会人としての心構えとビジネスマナー」(連携企業等:岡山科学技術専門学校教務部)
期　間:令和6年9月6日(金)
対　象:一級自動車工学研究科（武内　一範）
内　容:①社会人の心構えについて
②姿勢とおじぎ、あいさつ

（3）研修等の計画
①専攻分野における実務に関する研修等
(1)研修名:「日産新技術講習会」（連携企業等:日産自動車株式会社）
期　間:令和7年10月または11月
対　象:一級自動車工学研究科（武内　一範）
内　容:日産先進技術（EV　e-POWER　PPP　GT-R等）
CONSULTを使ったコンピュータ診断

②指導力の修得・向上のための研修等

(1) 研修名:「”モヤモヤしない”留学生とのコミュニケーションを目指して」（連携企業等:岡山科学技術専門学校教務部）
期　間:令和7年8月29日（金）
対　象:一級自動車工学研究科（武内　一範、永岡　淳）
内　容:本校への留学生が増えてきている現状を踏まえ、日本語学科の青木先生が留学生との会話のポイント等について講義

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

（1）学校関係者評価の基本方針
本校の学校関係者評価は、文部科学省の「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき、全教職員に実施した自己評価とともに、学校長が作成した自己点検・自己評価の資料を基に、学校運営に関わる部分、教育活動に関わる部分、学科教育活動に関わる部分等について、学校関係者評価委員会において協議し、現状の課題や問題点を洗い出し、改善点等について助言や提言をいただくとともに、運営委員会に諮り緊急性・重要性等の優先順位に基づき具体案を作成する。これを以て次年度の学科教育方針の見直しや学校運営等の改善に取り組むことを基本方針とする。
特に、学科教育については、資格取得や進路状況の他、教育課程編成委員会からいただいた助言や提言に基づく改善点等についても協議し、学科改善の指針とする。
なお、自己点検・自己評価、「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づく自己評価表、学校関係者評価はホームページ上から公表する。

（2）「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	①学校の理念・目的・育成人材像　②学校の特色　③学校学科の将来構想
(2)学校運営	①運営方針　②事業計画　③意志決定機能　④人事・給与規程　⑤情報公開 ⑥業務の効率化
(3)教育活動	①教育理念に沿った教育課程　②教育到達レベルや学習時間　③カリキュラムの体系化 ④授業評価　⑤成績評価・進級・卒業判定　⑥資格取得の指導体制　⑦教員の確保 ⑧教員の資質能力の向上　⑨教員研修の実施
(4)学修成果	①就職率　②資格取得率　③退学率の低減　④卒業生の社会的評価
(5)学生支援	①進路・就職の支援体制　②学生相談の体制　③経済的支援の体制　④健康管理体制 ⑤課外活動　⑥学資負担者との連携　⑦卒業生への支援
(6)教育環境	①施設・設備の整備　②学内外の実習施設・インターンシップ・海外研修の教育体制 ③防災体制の整備
(7)学生の受入れ募集	①学生募集活動　②教育成果の伝達　③学納金
(8)財務	①中長期的財務基盤　②予算・収支計画　③会計監査 ④財務情報の公開体制
(9)法令等の遵守	①法令・設置基準等の遵守　②個人情報の保護　③自己点検・自己評価の実施 ④自己点検・自己評価の公開
(10)社会貢献・地域貢献	①学校の教育資源や施設の活用　②学生のボランティア活動 ③公開講座、教育訓練の受託
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

（3）学校関係者評価結果の活用状況
〇学校運営の改善
【質問・提言】
特になし
〇学科教育活動の改善
【提言・質問】
資格に関しては第一優先で身に付けていただきたい。第二優先は服装、言葉遣い、マナー。社内でのコミュニケーションやお客様への対応でも必要となるので、学生を成長させてあげるという意味でもお願いしたい。

【改善等】
昨年の卒業生1名は資格試験に合格し、就職した。
本年度2年生も既に内定をいただいており、内定先に長期インターンに従事中である。

（4）学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和7年4月1日現在

名　前	所　　属	任期	種別
栗田　真志	株式会社プローバ　代表取締役	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日(1年)	企業等委員
小上　敏寿	旭電業株式会社　総務部総務課　係長	〃	〃
馬野　信吾	株式会社うまの 代表取締役社長	〃	〃

岡田　一真	平和建設株式会社　代表取締役	〃	〃
西林　淳司	株式会社ナイカイアーキット 管理部執行役員代理	〃	〃
竹原　満	ユアサエ機株式会社　社長室　次長	〃	〃
杉谷　雅弘	リコージャパン株式会社 デジタルサービス営業本部 岡山支社 岡山第二営業部	〃	〃
重松　敬一	岡山トヨタ自動車株式会社 執行役員	〃	〃
金子　武志	山陽村上モーター株式会社 常務取締役	〃	〃
松下　洋	スズキ岡山販売株式会社　執行役員　サービス部　部長	〃	〃
薮田　尊典	岡山科学技術専門学校　同窓会　会長	〃	卒業生
田中　裕子	岡山科学技術専門学校　学生支援会　会長	〃	PTA

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
（例）企業等委員、PTA、卒業生、校長等

（5）学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
（〇ホームページ　・　広報誌等の刊行物　・　その他（　　））
URL　https://www.oist.ac.jp/
公表時期：令和7年8月

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

（1）企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等に対して、公教育機関としての透明性の確保と説明責任を果たすため、本校の教育活動および学校運営状況等について、文部科学省の「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」に則り、情報を広く公開する。以て、企業等の学校関係者から支持や信頼を得るとともに、適切な情報を提供することにより、高校生等の学校選択の一助となることを基本に、分かり易く見やすい情報発信に努める。

この他、情報提供について他校との差別化を図るため、本校の教育力や教職員の質的レベルの高さを示すものとして教育活動方針ならびに研究紀要を公開し、本校教育の実際の姿を周知する。

以上が、情報提供の基本方針である。

（2）「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
（1）学校の概要、目標及び計画	・学校組織、教育活動方針、沿革、設置学科、学生数
（2）各学科等の教育	・目指す学科像、育成する学生像、資格取得上の特典等
（3）教職員	・教職員数
（4）キャリア教育・実践的職業教育	・インターンシップ、進路講演会、企業説明会 ・教職員の研修会の参加、研究紀要
（5）様々な教育活動・教育環境	・広報新聞、技術協議会、展示会、校外研修 ・スポーツクラブ、学生寮の整備
（6）学生の生活支援	・アルバイトの紹介、教育相談、学生支援会、企業後援会 ・同窓会
（7）学生納付金・修学支援	・学生納付金 ・奨学金制度
（8）学校の財務	・資金収支計算書 ・貸借対照表
（9）学校評価	・自己点検・自己評価 ・自己評価 ・学校関係者評価
（10）国際連携の状況	
（11）その他	

※（10）及び（11）については任意記載。

（3）情報提供方法
（〇ホームページ　・　広報誌等の刊行物　・　その他（　　））
URL　https://www.oist.ac.jp/

授業科目等の概要

（工業専門課程　一級自動車工学研究科）

	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			自動車工学 力学・数学・図面・燃料・潤滑・材料Ⅰ	力学、数学、図面、燃料、潤滑、材料について学ぶ。	1通	16		○			○		○		
2	○			機器の構造取扱 検査機器Ⅰ	検査時に使用する機器の使用方法を学ぶ。	1通	18		○			○		○		
3	○			自動車工学 （自動車の構造）	自動車の新機構について学ぶ。	1通 2通	90		○			○			○	
4	○			自動車工学 （電気・電子理論）	自動車の電気電子理論について学ぶ。	1通 2通	42		○			○			○	
5	○			自動車整備 （エンジン故障診断）	自動車のエンジンについて故障判定の方法や診断方法について学ぶ。	1通	64		○			○			○	
6	○			自動車整備 （シャシ故障診断）	自動車のシャシについて故障判定の方法や診断方法について学ぶ。	1通	64		○			○		○		
7	○			自動車整備 （電装故障診断）	自動車の電装について故障判定の方法や診断方法について学ぶ。	1通	22		○			○		○		
8	○			自動車整備 （総合、環境、安全）	自動車の整備について接客の方法、自動車の使用による環境への影響、安全作業の方法について学ぶ。	1通	64		○			○		○		
9	○			自動車概論	自動車に関する全般的な内容について学ぶ。	1通	14		○			○		○		
10	○			マネジメント	自動車を整備する時の受付から納車時の接客方法について学ぶ。	1前	14		○			○		○		
11	○			自動車検査	自動車の検査の方法について学ぶ。	1後	6		○			○		○		
12	○			自動車法規	自動車の法令について学ぶ。	1後	12		○			○		○		
13	○			工作作業	ヤスリや電気ドリルなどを使用して工作作業を学ぶ。	1前	12				○	○		○		
14	○			測定作業	テスター等を使用して測定作業の方法を学ぶ。	1前	12				○	○		○		
15	○			自動車整備作業Ⅱ	自動車全般について整備の方法を学ぶ。	1通	594				○	○		○	○	
16	○			自動車検査作業Ⅱ	自動車の検査作業の内容や方法について学ぶ。	1後	64				○	○		○		
17	○			マネジメント	自動車の整備について受付から納車までの接客の方法を実践的に学ぶ。	1通	64				○	○			○	
18	○			体験実習 （自動車の点検整備・故障原因探求・総合診断）	インターンシップにより実践的に整備作業全般について学ぶ。	2前	240				○	△	○	○		○
19	○			評価実習 （自動車の点検整備・故障原因探求・総合診断・マネジメント）	企業で行うインターンシップで必要となる整備作業全般について学ぶ。	2通	860				○	○		○	○	
20	○			ホームルーム	学校生活での注意事項や就職活動、学校行事に関する企画、立案など幅広い内容について学ぶ。	1通 2通	40		○			○		○		

21	○			ビジネス教養	仕事内容や就職活動で必要となる内容について学ぶ。	1 通	16		○			○		○		
合計					19科目	2304単位時間(　　単位)										

2人

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
○卒業要件：次の条件を満たしていること。 (1)学納金が完納されていること。 (2)全科目の出席率が、内規で定められた出席率を上回ること。 (3)科目認定率が、内規で定められた割合を上回ること。 (4)素行が良好なこと。 ○履修方法：全科目必履修	１学年の学期区分	2期
	１学期の授業期間	講義16週 実習18週